
Fate/Fake of Original

黒野 凜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

F a t e / F a k e o f O r i g i n a l

【Nコード】

N 3 2 3 5 B

【作者名】

黒野 凜

【あらすじ】

f a t eのアナザー、士郎が幼少の頃に出会った人は――

プロローグ『師との出会い』（前書き）

f a t e の二次創作です

主人公強化物でハーレム予定です

プロローグ『師との出会い』

痛い…痛いよ…誰？

熱く…紅く燃える中、僕は居たそして、誰かが助けてくれた…

「…ごめんね、僕は君しか助けられない」

その言葉と共に頭を撫でてくれた…そして気がつけば意識を失って居た

気が付いた時、周りを見ると病室だった。 そっか僕は生き延びたんだ、それだけは理解出来た

数日たった、この日までに有った事と言えば、検査を受けた事やマスコミが騒いでいた位だ

そして今日、俺は出会った

「こんにちは。君が士郎君だね」

その人はボサボサの髪によれたコートを着た、どこかぼやっと男性だった。

「率直に訊くけど。孤児院に預けられるのと、初めて会ったおじさんに引き取られるの、君はどっちが良いかな？」

ああ、決まっている。この声は僕を助けてくれた人だと理解出来る、なら答えは…

「はじめに言っておくとね——僕は魔法使いなんだ」

衛宮切嗣。この爺さんは

「みんなには内緒だよ」

と楽しそうに言った。正直、選択を誤ったかもしれないと一瞬だが後悔してしまった。だが、納得した、正直あの時死ぬのを覚悟した自分が生きているのは、その魔法なのだろうから

そして俺は
「衛宮士郎」
になった。

F a t e / F a k e o f O r i g i n a l プ ロ ロ ー グ 『 師
との出会い』

衛宮士郎になった俺は切嗣に魔法―のちに魔術と知った―を教えて貰おうと何度も何度もお願いした。

そして、教えて貰える様になった頃には数カ月たっていた。この日までに有った事と言えば、近所に住んでいる切嗣の知り合いと言う極道の藤村組の組長と言う雷画爺さんに挨拶に行ったり、雷画爺さんに気に入られたり、切嗣を

「爺さん」

と呼ぶようになったり、雷画爺さんの孫娘が入り浸る様になったりと色々―本当に色々―有った。

そして、爺さんから教わった魔術は三つだけ、解析・強化・投影の三つ―ただし投影は意味が無いから使うなと言われたが―それから何年かたったある日の夜、爺さんと二人で縁側に座り月を見ていた。
「子供の頃、僕は正義の味方に憧れてた」

爺さんの独白のような言葉に反応した

「なんだよそれ。憧れてたって、諦めたのかよ」

爺さんは俺の言葉に困った様な笑顔で答えた

「うん、残念ならがらね。ヒーローは期間限定でね、大人になると名乗るのが難しくなるんだ。そんなコト、もっと早く気付けば良かった」

「そっか、それじゃしょうがないな」

「そうだね。本当にしょうがない」

俺は決めた―

「うん、しょうがないから俺が代わりになってやるよ。爺さんはも

う大人だから無理だけど、俺なら大丈夫だろ。まかそろつて、爺さんの夢は——」

「俺が、ちゃんと形にしてやるから
だけど爺さんは

「ありがとう、でも君は君だから、君自身になりたいモノになつて
欲しいんだ」

「ならば、爺さんの夢を形にするのも、俺自身の夢も一緒に叶える
——それで、どうだ。」

「そつか……それで良かったんだ」
月を見上げながら、

「ありがとう、士郎。——安心した」

爺さんは、ゆっくりと眠るように眼を閉じ——そして

爺さんの葬儀が終つて一ヶ月も経つた頃、この頃には心の整理も有る程度ついて落ち着いた頃

——ピンポーン——

「はい」

戸を開けると

「衛宮切嗣さんは御在宅かしら」

眼鏡を掛けたショートカットの女性が尋ねてきた

爺さんが亡くなって、暫くの間、爺さん——切嗣——の知り合いが何人も尋ねてきたので何時もの様に言葉を返した

「切嗣は一ヶ月程前に亡くなりました」

「……そう、なら線香をあげさせて貰つて良いかしら？」

女の人を仏間に通す、爺さんが仏教徒だったと聞いた事は無いが、
雷画爺さんが用意してくれた

——チーン——

「……………」この女性は何処か爺さんと同じ雰囲気を持っていたから――

「お姉さんは魔術師なんですか？」

――と、聞いた

「だとしたら、どうだと言った。少年」

俺は「爺さんの夢を形にすると誓った――だから

「お願いが有ります」

「お願い？」

女性俺に興味深く、楽しそうに見ながら

「お願いを聞く場合、私に何か利益が有ると？」

――等価交換――今の俺には

「俺の持てる全て」これしか無いから、真っ直ぐ女性を見て言った

「全て？高々、子供の分際で何が出来ると？」

「俺の人生をお姉さんに」

女性「――凄く真剣に――俺を見ていた。そして

「クスクス…分かった。取り合えず、話を聞こう」

「俺に魔術を教えてください」

「むっ……」

女性は俺をジューっと見ていた

彼女は、きつと切嗣と同じ世界を生きている人だと思うから、俺は自分が何をして、何を学ばなければいけないのか判らないから、彼女の元で学びたいと思った

「君は。切嗣の実子では有りませんか？」

「はい」

「『コチラ』の事は切嗣に？」

「はい」

「ふむ……面白い少年ではある…それに…クスクス」

彼女は何を思い出したのか少し笑った後

「分かった。ただし、教える以上厳しくいく…えっと」

「土郎です。先生は何て名前何ですか？」

「先生！？…クス、私の名前は蒼崎橙子だ……名字は呼ばない様に」

そして俺は彼女の弟子になった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3235b/>

Fate/Fake of Original

2010年10月22日00時04分発行